

欣浄寺こんじやうじは墨染すみぞめの南にあり、浄土宗にして、本尊には阿弥陀仏を安置す。「立像にして、聖徳太子十六歳の御作」此地にいにしへ深草少将ふかくさのせうしやうの第宅なり。「寺記に曰、四位少将しゐのせうしやうは深草大納言義平卿ふかくさだいなごんよしひらの長子にして、少将義宣卿よしのぶと号す、弘仁三年三月十六日此所において卒し給ひぬとかけり」

少将の塚つか、小野小町の塚をのこまち「堂のうしろ池のひがしにあり」墨染井すみぞめのゐ「池の汀にあり」少将かよひ道せうしやうのみち「池のひがし藪の間にあり、小町が宅小野庄たくをのしやうに、百夜かよひし道なりとぞ。秀吉公ひでよしのとき伏見の城へ訴訟あるもの、此道を通り行ば願ひ事叶はずといひ伝ふ」道元禅師だうげんぜんじの石像せきざう「少将塚の北にあり。道元禅師入宋にふそうの後、此所にはじめて禅寺を営給ふなり」七瀬川局墳なせがほねのつか「石像の北にあり」竹の下道たけしたみち「かよひ道のほとりをいふ」

続 千 深草ふかくさや竹の下道分過てふしみにかゝる雪の明朗

前関白太政大臣